

「人中心」の開発思想ですべてを磨き上げ、乗る人みんなのこころを解き放つ、爽快シビック。

コンセプトを「爽快シビック」に定め、さらに、「爽」の字に含まれる「人」と「快」を強調することで、“人の気持ちよさや楽しさ”を徹底追求しながら開発を推進。Hondaのクルマづくりの根幹である「人中心」の開発思想をより深く掘り下げ、デザイン、ダイナミック性能、ヒューマン・マシン・インターフェイス(HMI)のすべてを、スペックには表れない感性領域にまで踏み込んで磨き上げました。流れるようなプロポーションと開放的なインテリア、運転しやすく操る喜びに満ちたダイナミック性能、そして、視線・動線・触感に配慮した心地よい仕立てが、乗る人みんなに爽快な体験をもたらします。

【達成手法】

■デザイン：流れるようなプロポーションと開放的なインテリア

低重心・水平基調でシンプルかつ丁寧につくり込んだ流れるようなプロポーションと、「爽やかな朝」をテーマにつくり上げた開放的なインテリアで、見る人乗る人すべてに爽快を感じさせるデザインを完成。

■ダイナミック性能：運転しやすく、クルマと対話するかのようにドライブが楽しめる、質の高い軽快感

先代モデルが確立した新次元の操る喜びをベースに、運転しやすく、ドライバーの意志に限りなく忠実に応えるダイナミック性能を実現。市街地から高速道路までさまざまなシーンで軽快かつリニアな走りが楽しめます。

■ヒューマン・マシン・インターフェイス(HMI)：人とクルマが爽快につながるインターフェイス

キャビン全体を人とクルマをつなぐインターフェイス空間とらえて開発。「瞬間認知・直感操作」を徹底したドライビング空間をはじめ、各席乗員の視線・動線、手に触れる部分の気持ちよさにまで配慮することで、乗る人みんなが爽快にクルマとつながれるインターフェイスを実現。



親しみやすさ

Approachable

特別感

Speciality